ま　え　が　き

このたびは当社製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。

ご使用になる前に必ず本書をお読みになり使用方法を理解してください。(誤った使用方法は、事故・怪我の原因となります)

作業機の取扱説明書も必ず読んで理解の上使用してください。

取扱説明書は、大切に保管し、何時でも見られるようにしておいてください。

末永く皆様のお役に立ち，ご愛用くださるようお願い申しあげます。

※エンジンの改良等により、本書の内容が異なる場合がありますのでご了承ください。

目　　次

安全にご使用いただくために……1頁
エンジン各部の名称……3頁
運転を始める前に……4頁
エンジンの始動と運転……5頁
エンジンの停止……7頁
日常点検と定期点検……8頁
簡単な調整・整備……9頁
長期保存のしかた……11頁
不具合点検要領……12頁
仕　　様……13頁

SUBARU

識別番号を記録しておいてください。

お手持ちのエンジンの識別番号を下記の空欄に記入しておきましょう。補用部品をご注文される場合に便利です。

PROD NO.	SER NO.

安全にご使用いただくために

安全にご使用いただくために、シンボルマークや標語を次のような内容で使いわけてあります。

危険：この表示はその警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性が高いと考えられる項目に使用します。

警告：この表示はその警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う可能性が考えられる項目に使用します。

注意：この表示はその警告に従わなかった場合、けがや火傷を負う可能性が考えられる項目に使用します。

またそれぞれの項目に危険を回避するための予防措置を記載していますので必ず守ってください。

危険：燃料はエンジンを止めてから補給すること。

・エンジンを運転したまま燃料を補給すると、燃料がこぼれて、エンジンスパークやマフラなどから引火することがあります。
・燃料の補給は、運転停止後2分間以上冷却した後行ってください。
・燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってから始動してください。
・燃料補給時のくわえタバコなど、火気厳禁。

危険：排気ガス出口付近には、燃えやすいものは近づけないこと。

マフラの排気口付近は高温になります。火災の原因になりますのでガソリン、マッチ、紙、わらくず等、燃えやすいものを近づけないでください。

危険：エンジンのまわりは火気厳禁、燃料に引火、火災の危険があります。

危険：平坦な安定した場所に設置すること。

傾斜地では燃料タンクキャップや気化器から燃料がこぼれ、火災の原因になります。

危険：エンジンの運搬時は燃料を抜くこと。

燃料がタンクに残っていると燃料が漏れ、火災の原因になります。

警告：室内、トンネル内など換気の悪い所では使用しないこと。

エンジンの排気ガス中には一酸化炭素などの有害な成分が含まれており、ガス中毒を起こす危険があります。やむをえない場合は、排気ガスの室外放出等、十分換気をしてください。

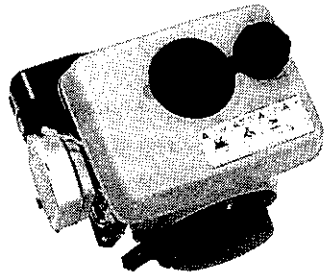
注意：**出力軸、プーリ、ベルト等の回転部が露出していないこと。**
十分な防護（カバー）をして回転部への接触を防止する処置を取ってください。負傷事故の原因になります。

注意：**熱くなっているマフラーやエンジン各部を触らないこと。**
火傷の恐れがありますので、これ等の箇所には十分な熱害防護策をしてください。幼児が触れないよう隔離措置をして、安全な場所で運転してください。

注意：**始動時や運転中に高圧コードや点火プラグキャップに触れないこと。**
感電の恐れがあります。

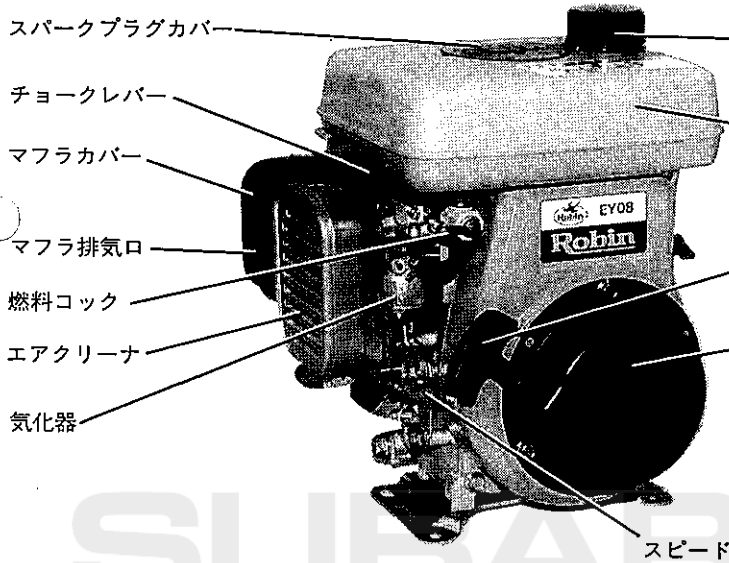
注意：**作業前の点検を行いましょう。**（くわしくは 4 頁以降を、お読みください）
- 燃料パイプ等の取付部がゆるんでいないか、又損傷していないか十分確かめて、必要があれば締め付けや交換をしてください。燃料漏れは引火する危険があります。
- 各部のボルト、ナットのゆるみはないか確かめてください。各部の機能に異常が生じ危険です。
- 冷却ファンやリコイルスタータの周囲から、ゴミ、草及びその他のくず等は、取り除いてください。
- オイルは適量に入っているか確かめてください。オイル不足は機能に異常が生じ危険です。
- 運転する時の服装にご注意ください。前掛け、腰タオル等特に長い紐類は巻込まれたり、引掛かる危険があります。

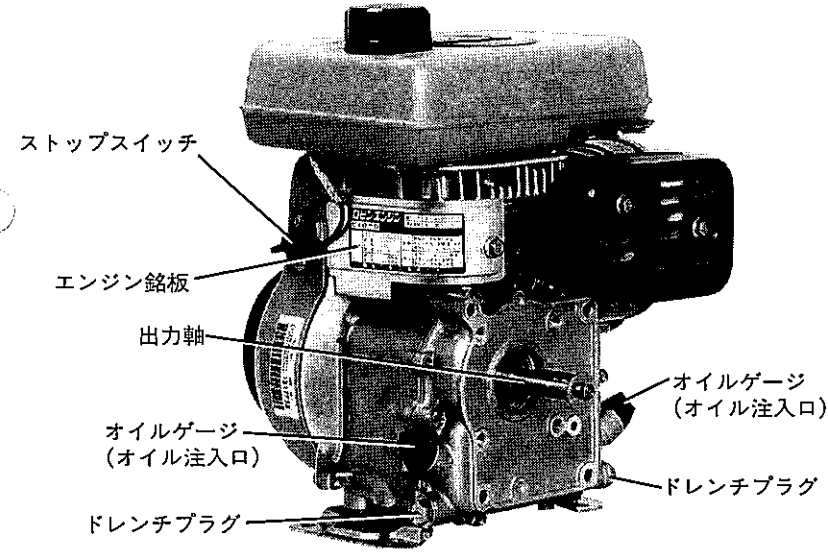
警告表示
- 当社エンジンには下記に示す場所に、特に重要な危険事項に対し注意ラベルが貼付されています。使用に際しては、十分に理解の上守ってください。
- 注意ラベルが見えにくくなった場合や、はがれた場合には貼りかえてください。



部品番号0732004710

エンジン各部の名称



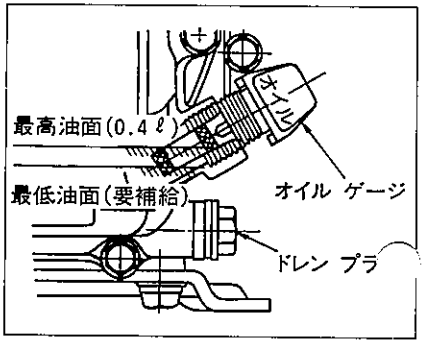


SUBARU

運転を始める前に　――次の準備をしてください――

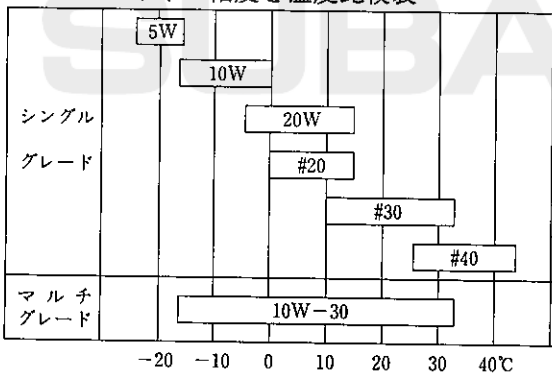
1 エンジンオイルを入れる。

・オイルはエンジンを水平において、注入口から蓋をねじ込まないで、上のきざみ線まで入れてください。
約0.4ℓ入ります。



・オイルは下表粘度の自動車用エンジンオイルを使用してください。
・オイルの品質はSC級以上の物をご使用ください。

オイル粘度と温度比較表



注意事項
外気温度−20℃以下の場合は現地に適合した粘度・品質のものを使用してください。
外気温度40℃以上の場合は現地に適合した粘度・品質のものを使用してください。
但し外気温度が高いときの使用ではオイルの消費量は増す傾向がありますので日常点検にご注意ください。

・エンジンオイルの質および量を低下させると焼付損傷をまねきます。

2 燃料タンクに燃料を入れる。

危険 火気厳禁

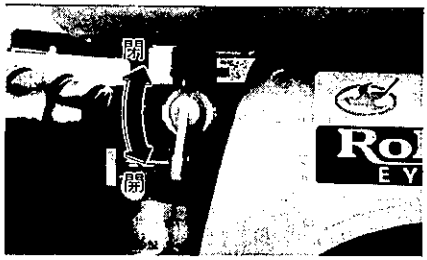
・燃料は自動車用普通ガソリンを使用してください。
・燃料タンク容量は約1.5ℓです。
・燃料補給は燃料コックを閉じておこないます。
・燃料が外へこぼれたら、きれいにふき取ってから始動してください。

SUBARU

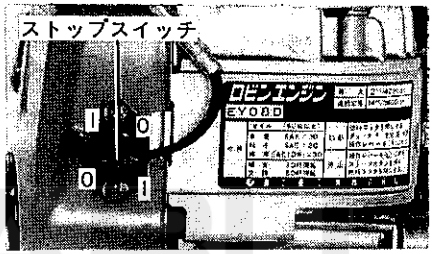
エンジンの始動と運転

1 始　動

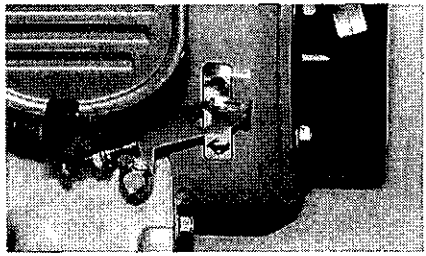
(1) 燃料コックを開きます。
レバーを真下に向けると、燃料が通じます。



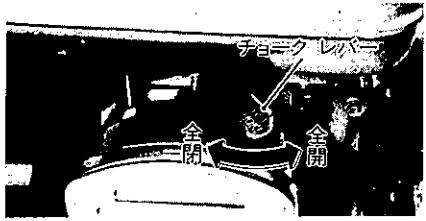
(2) ストップスイッチを運転I(ON)側にまわします。



(3) スピードコントロールレバーを始動(🐢と🐇の中間)位置に合わせます。



(4) 気化器のチョークレバーを閉じます。
チョークの開度は
1)気候が寒い時、またはエンジンの冷えている状態から始動する場合は全閉にします。
2)気候が暖かい時、または運転停止直後の暖まったエンジンを再始動する場合は、全開もしくは半開にして始動します。もし始動しない場合は全閉にします。



SUBARU

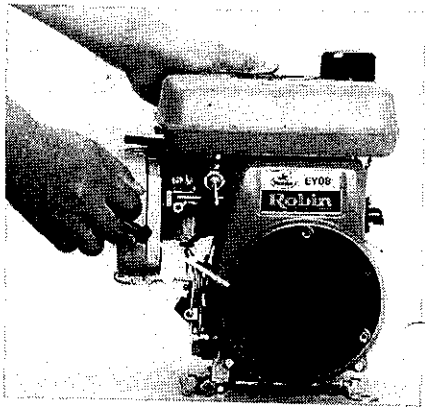
(5). 始動ノブを勢いよく引っ張ります。

1) リコイルスタータの操作

始動ノブをゆっくり引いてゆくと重くなる所（圧縮点）があります。それを更に少し引くと一度軽くなる所があります。そこから始動ノブを一旦もとに戻してから一気に引っ張ります。

2) ロープは一杯に引ききらないでください。

エンジンが始動したら始動ノブは、その位置から手離さないで、しずかに元に戻してください。



(6) 気化器のチョークレバーを開きます。

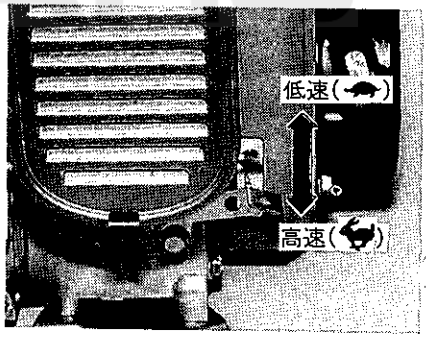
1) 始動後チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開いてゆき、最後には必ず全開にしてください。（全部戻してください。）

2) 寒い時、またはエンジンの冷えている時、急にチョークレバーを開くとエンジンが停止する事がありますのでご注意ください。

2 運　転

(1) エンジン始動後、負荷をかけずに約1～3分位低速(🐢)側で運転（暖気運転）します。

(2) スピードコントロールレバーを徐々に高速(🐇)側に操作し、所要回転数にセットします。



・運転中・高速を必要としない時（作業休止時）はその都度スピードコントロールレバーを低速(🐢)側に戻してください。
燃料の節約のみならず、寿命にも好影響を与えます。

SUBARU

エンジンの停止

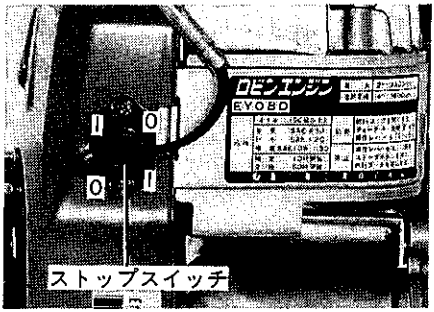
1 停　止

(1) エンジン回転数を低速(🐢)にし1～2分運転します。

(2) ストップスイッチを停止0(OFF)側にまわしてください。

(3) 燃料コックを閉じます。

(4) リコイルスタータの始動ノブをゆっくり引き重くなった所で止めておいてください。エンジン内部への外気（湿気）の侵入が防止できます。



2 燃料コックで停止させる方法

長時間使用しない時は、燃料コックを閉にして気化器内の燃料を使い切り、エンジンが自然に停止するのを待ちます。この方法は気化器内に残った燃料が変質し気化器内のつまり等を防止する為です。

SUBARU

日常点検と定期点検

日常点検

ご使用になる前、是非次の点検を行ってください。

定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行してください。(普通の状況で使用の場合)

運転時間	8時間(毎日)	50時間(毎週)	200時間(毎月)	500時間
各部の清掃及び締付点検	○(毎日)			
エンジンオイルの点検・補給	○(毎日	規定最大量まで補給する)		
エンジンオイルの交換	(初回20時間目)	○		
点火プラグの清掃		○		
エアクリーナの清掃		○		
燃料ストレーナの清掃			○	
点火プラグ間隙清掃と調整			○	
シリンダヘッドのカーボン除去				◎
気化器清掃				◎
吸排気弁点検すり合せ				◎
オーバーホール				◎

注意 燃料パイプ類は2年で交換してください。燃料漏れは引火する危険があります。尚、点検時漏れ等のあるものは2年を待たずに交換してください。

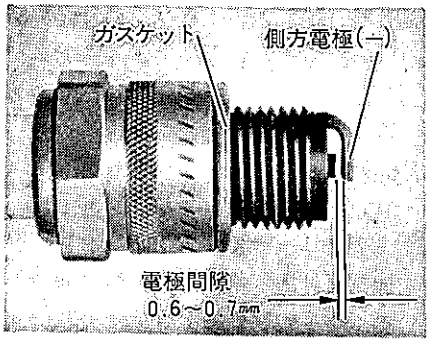
注意 日常点検、定期点検を行う場合は、火傷に十分注意し、火気厳禁で実施してください。

- **500Hrの点検項目は販売店又は整備工場にご用命ください。**
- **点火プラグ**

  点火プラグの品番は各種作業の環境温度および負荷の大小等により適性値が変ります。

  低温、低回転、軽負荷等での作業時は焼け型のプラグをご使用ください。

1 点火プラグの清掃と調整

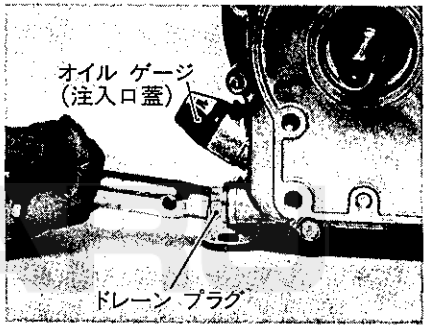


(1) プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナ又は、ワイヤブラシ等で汚れを落してください。

(2) 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて、0.6~0.7mmに調整します。

2 エンジンオイルの交換

初　　回　20時間運転後に交換
第2回以降　50時間運転ごとに交換



(1) オイル交換はエンジンを停止し暖まっている時、ドレンプラグを外して抜きます。オイルゲージ（注入口蓋）を外しておくと早く抜けます。

！注意 熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意してください。

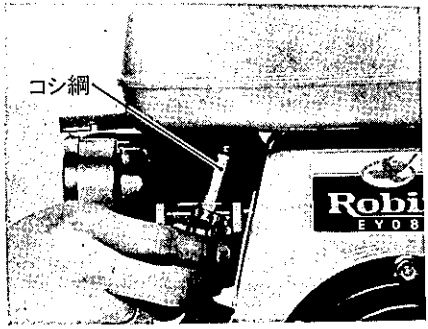
(2) オイルを注入する時は、ドレンプラグをしっかり締め20~23Nm(200~230kg-cm)上のきざみ線まで入れてください。約0.4ℓ入ります。

(3) 使用オイルについては4~5頁を参照ください。

・エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪い物を使用しますと、エンジンの寿命をいちじるしく縮めます。
常に良質できれいなオイルを規定量保つように注意してください。

3 燃料ストレーナの清掃

！危険 火気厳禁



(1) ストレーナにゴミがつまっているようでしたら、タンク内燃料を抜きます。

(2) タンクからストレーナを外します。

(3) ストレーナを洗油（白灯油）の中でゆり動かし、軽く指でゴミ等を取り去ります。

4 エアクリーナの清掃

空気中の塵埃を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどい時は、エンジンの始動不良、出力不足、運転の不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。

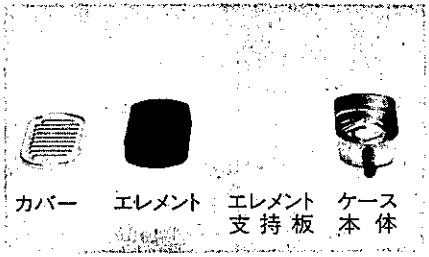
いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくように心掛けてください。

《清掃要領》

危険 火気厳禁

・ウレタンフォームエレメント

エアクリーナよりエレメントを抜き取り、洗油（白灯油）で洗浄後、白灯油3：エンジンオイル1の割合の混合油に浸し、固く絞って取付けます。



・ウレタンフォーム不織布2重構造（オプションパーツ）

(1) ウレタンフォームは同上の方法で清掃してください。

(2) 内側のエレメントは洗油（白灯油）で洗浄後、しずくを切ってから、白灯油3：エンジンオイル1の割合の混合油に浸し、振り絞ってから取り付けます。

5 各所ボルト、ナット、ビスの弛みはないか破損はないか点検します。

・ゆるんだボルト、ナット等は増締めします。

燃料や、オイル漏れがないか点検します。

・破損部品は新品と交換してください。

SUBARU

長期保存のしかた

1 燃料を抜く

危険 火気厳禁

1カ月以上、エンジンを使用しない場合は、燃料の変質による始動不良、または運転不調にならないように燃料を抜き、湿気の少ないところに保管してください。
燃料タンク及び気化器フロート室の燃料を抜くには、燃料コックのレバーを真下にし気化器下部のフロート室締め付ボルトを外し、燃料を抜いてください。

2 注油する

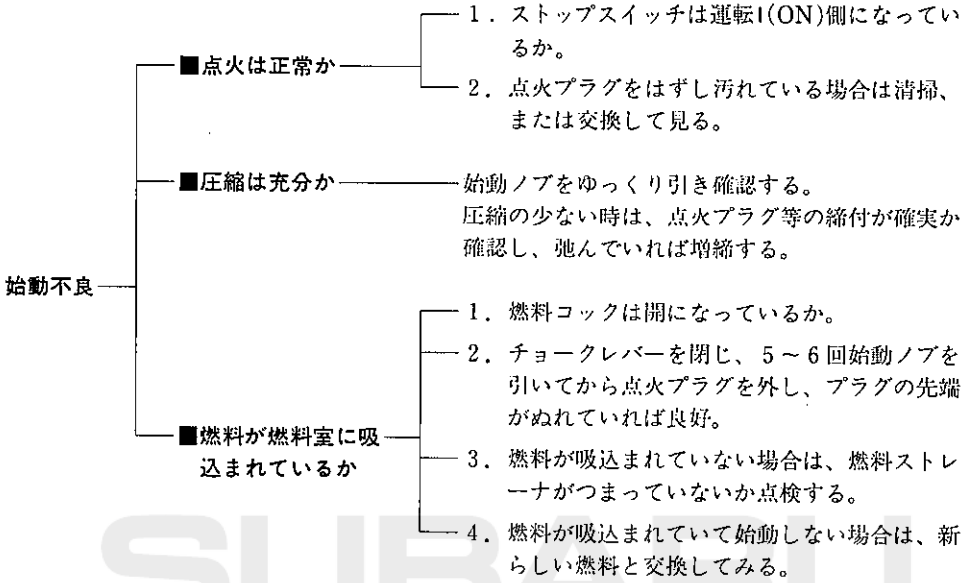
エンジンオイルは新しいオイルと交換しておきます。
点火プラグを外し、エンジンオイルを約5mℓ注入し、リコイルスタータの始動ノブを静かに2～3回引き、点火プラグを締め付けてください。

3 清掃して格納する

リコイルスタータの始動ノブを引いて重くなった所で止めておきます。
各部を油布で清掃し、カバーをかけて湿気、ホコリの少ないところに格納してください。

SUBARU

不具合点検要領



SUBARU

・以上の点検をしてもエンジンが始動しない場合は、販売店又は整備工場で点検してもらってください。

仕　　様

名　　称	EY08D形	EY08BN形
形　　式	空冷4サイクル立形側弁式ガソリンエンジン	
総排気量cm³(cc)	77.6	
連続定格出力(kW{ps}/rpm)	1.0{1.4}/3600	1.0{1.4}/1800
最大出力(kW{ps}/rpm)	1.5{2.0}/4200	1.5{2.0}/2100
回転方向	左（出力軸側より見て）	右（出力軸側より見て）
使用潤滑油	ロビン純正オイルまたは自動車用エンジンオイル （4～5頁参照）	
使用燃料	自動車用ガソリン（無鉛）	
燃料タンク容量(ℓ)	1.5	
点火プラグ	NGK・BM4A（S.T.Dエンジン）	
始動方式	リコイルスタータ式	
乾燥質量(kg)	8	8.5
寸法 全長×全幅×全高(mm)	252×264×326	

注）{　}内は参考値です。

特装品として次の物が用意してあります。（ご注文はロビンエンジン部品特約店にご相談ください。）

1. 特殊エアークリーナ（サイクロン）
2. チャンバドレーン付キャブレータアッセンブリ
3. クランクケース側面駆動軸側方向索引部品

SUBARU

国内排出ガス自主規制について

SUBARU

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp　(H15.1現在)

SUBARU

富士重工業株式会社
産業機器カンパニー
〒364-8511 埼玉県北本市朝日4-410
TEL 048-593-7857
TEL 048-593-7965
http://www.fhi.co.jp/robin/